



令和元年度 事業報告書

特定非営利活動法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

目次

I. 事業部門

1. 国内のダンスアーティストの育成と創造環境作り —p.2
・コンテンポラリーダンス・プラットフォームを活用した振付家育成事業『ダンスでいこう！！2019』
2. 文化芸術による被災地の復興支援 —p.7
・三陸国際芸術推進事業 2019
(1) 芸能マッピング事業 —————p.7
(2) アーティスト・イン・レジデンス事業(三陸芸能短期留学) ———p.8
(3) 三陸国際芸術祭 2019 —————p.9
3. 「すべての人がダンスと出会う」機会を創る、コミュニティダンス —p.11
・「こちかぜ(東風)キッズダンス 6
—東山区発の、ダンスによる子ども育成を通じた地域力創造プログラム 2019—」
4. 子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及 —p.12
・令和元年度「文化芸術による子供育成総合事業—コミュニケーション能力向上事業—」
コーディネーター方式
5. コンテンポラリーダンスを用いた、社会的課題への取組 —p.16
・文部科学省「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」2019
6. ダンスに関わるプログラムの企画立案・コーディネート
・社会福祉法人平安養育院 児童養護施設平安養育院 主催
「アートを通じて地域で子どもをはぐくむ機運向上プロジェクト」 ———p.18
・埼玉県・公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団主催
「世界ゴールド祭 2020(国内招聘プログラム)」 —————p.19
7. その他、講習・政策提言・アドバイザー等 —p.19

II. 会員部門

8. コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信 —p.20
・JCDN 会員サービス等

I. 事業部門

1. 国内のダンスアーティストの育成と創造環境作り

コンテンポラリーダンス・プラットフォームを活用した振付家育成事業『ダンスでいこう！！2019』

（事業主旨）新しい時代の始まりに、新しいコンテンポラリーダンスの人材育成プロジェクトを開始します。ダンスのアーティストが生まれ、育つ環境、新しいダンス作品が生まれる環境を全国のダンスのオーガナイザーが核となり、互いに連携しながら、形創っていきます。日本のあらゆる場所が起点となり、他の分野や地域の公共団体やホールなどと協働し、未来に向けて、新たなスタートを切りたいと思います。

（実施概要）

2019年度は、全国10のプラットフォーム（以下）による振付家育成プログラムを、7月—2月まで実施。また、各地のプログラムのほかに、公開キックオフ・ミーティング（5月）、報告会「KYOTO Meeting」（2020年3月）など、様々な形で未来について話し合う場、継続するための場を設けた。

- ① 札幌プラットフォーム 運営：北海道コンテンポラリーダンス普及委員会
- ② 城崎プラットフォーム 運営：Dance Camp Project
- ③ 岡山プラットフォーム 運営：R40
- ④ 広島プラットフォーム 運営：FREE HEARTS
- ⑤ 松山プラットフォーム 運営：有限会社オフィスモガ
- ⑥ 神戸クリエイティブパートナー 運営：NPO 法人ダンスボックス
- ⑦ 名古屋クリエイティブパートナー 運営：N-Mark
- ⑧ 創造環境パートナー／ヘルスケア 運営：NPO 法人芸術家のくすり箱
- ⑨ 創造環境パートナー／ダンスメディア 運営：般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ
- ⑩ 創造環境パートナー／ダンスヒストリー 運営：ダンスヒストリー・スタディーズ

※以下二つのプラットフォームは、予算の都合上、神戸クリエイティブパートナーの事業内で実施。また、最終報告会「Kyoto Meeting」にて、神戸プログラムを更に発展させワークショップ＆ショーイングを行っていただいた。

・京都クリエイティブパートナー 運営：（一社）ダンスアンドエンヴァイロメント

・京都クリエイティブパートナー 運営：（一社）ANTIBODIES Collective

① 札幌プラットフォーム

【タイトル】Sapporo choreo（サッポロ・コレオ）振付家養成講座

【運営】北海道コンテンポラリーダンス普及委員会

【場所】CONTE-SAPPORO Dance Center（北海道札幌市西区琴似1条4丁目2-15-4F）ほか

【実施日】7月2日—12月27日 計8回

【講師】平原 慎太郎、川上 りえ、櫻井 幸絵、山下 残

【内容】これからの長きにわたり創作にかかわり続けてくれる人材を増やすことを目的に全8回の講座と成果発表公演にて8人の受講者を育成。プロの振付家や演出家、美術家の講師を招き、実践と講座を通して学んだ。参加者は全8回の講座を通して作品を制作し、成果発表としてスタジオショーイングを実施。最終講義はショーイングの後、観覧者と共に自身の作品を振り返る形で講座を行った。

【参加者（育成対象者）】計8名

② 城崎プラットフォーム

【タイトル】Dance Camp クリエイション&ダイアログ・ワークショップ By ディーン・モス&余越保子

【運営】Dance Camp Project 【講師・ファシリテーター】ディーン・モス、余越保子

【日程・場所】①Dance Camp:12月19日(木)~26日(木)城崎国際アートセンター ②アーティストとの対話:1月11日(土)徳正寺(京都)

【内容】①公募より選出された振付家・ダンサーなどから編成された3~5名のアーティスト・グループ4組を対象に、メンターとしてアーティスト2名を迎え、両氏が共に開発した“ダイアログ・ワークショップ”の手法を用いたクリエイション・ワークショップを実施。最終日に、成果発表としてショーイングを公開。

②アーティストの対話「コンテンポラリーダンスの行方」ディーン・モス(N.Y)+山下残(京都):二人のアーティストのダイアログ・対話を通して、コンテンポラリーダンスの発祥の地である米国と、日本のそれぞれの歴史を検証し、そこからみえてくる現在、未来への展望を語るレクチャーを実施。

【参加者(育成対象者)】①②計35名

③ 岡山プラットフォーム

【タイトル】踊場 odoriba Vol.7 【運営】R40

【日程】10月18日(金)リハーサル、19日(土)公演 【場所】上之町會館

【講師・アーティスト】紅玉(ゲストアドバイザー)

【内容】実験的・チャレンジ的なダンス作品を披露したいというアーティスト(振付家・ダンサー)を公募し、4組が新作発表を行った。また、ゲストアドバイザーを招いて、4組の作品に対して前日リハーサル後のWSから「話場hanashiba」まで作品上演のためのアドバイスをいただいた。「話場hanashiba」では一般の観客も参加してダンス作品についての概要、上演作品についての解説なども共有した。

【参加者(育成対象者)】計4名

④ 広島プラットフォーム

【タイトル】ダンスアートプロジェクト!! 【運営】FREE HEARTS

【日程】2月18日(火)~21日(金)ワークショップ、22日(土)ショーイング

【会場】安芸区民文化センター(広島県広島市安芸区船越南3-2-16)

【講師・アーティスト】近藤良平

【内容】振付に興味のある10~20代の若手ダンサー対象に4日間のワークショップを経て、最終日にショーイングを開催した。ショーイングは、参加者一人一人が2分間のソロを創ったほか、デュオや群舞など様々なシーンを交えた約2時間の作品を上演した。

【参加者(育成対象者)】計15名

⑤ 松山プラットフォーム

【タイトル】カラダで TRY ANGLE 【運営】有限会社オフィスモガ

【日程】1月23日(木)、24日(金)公演、25日(土)、26日(日)ワークショップ

【場所】white-dagdag(ダンススタジオ MOGA) 【講師・アーティスト】ルーシー・ギャレン

【内容】オーストラリアを拠点に世界中で活躍する振付家ルーシー・ギャレンを松山に招聘し、作品「SPLIT」の上演とワークショップを開催。ワークショップは、「しっかりとしたダンステクニックと存在感のあるダンサーになるためのワークショップ」として、振付がどのような技術と観念に裏付けられているか、そして如何にして発せられるのかを体験できるものであり、作品の振付メソッドや創作プロセスを学んだ。

【入場者・参加者(育成対象者)】延べ156名

⑥ 神戸クリエイティブパートナー

【タイトル】DANCE ARTIST VIEW 2019 【運営】NPO 法人 DANCE BOX

【日程】7 月—翌 1 月 【場所】ArtTheater dB KOBE、アートエリア B1

【内容】アーティストが、自らの活動環境や創造活動に今最も必要なことを自ら企画し、自らの価値観・バックグラウンドとは異なる他者もまきこみながら、表現と活動を前進・展開させるプロジェクトとして、5つの内容を実施。

(1)View.1「ダンスアーティスト 1Day(1Chance)Produce」(セルフカルチャート企画)

ダンスアーティストが、自らの活動環境や創造活動に、今最も必要だと思うことを自ら企画し、各プランを出し合い3企画を決定。

■View1-① 米澤百奈プロデュース

Japan×Europe「創って踊る」コンテンポラリーダンス vol.1- SHOWING/ヨーロッパで活躍するダンサークリエイションのワークショップを経て、クリエイション&ショーイングを行った。高校生と若いダンサーが、世界のダンスシーンをダイレクトに体感・交感する機会をプロデュース。

■View1-② ゆざわさなプロデュース

『The bomb#5 Re:MIX -関西のダンスの今をかき混ぜる-』振付家・ダンサーたちに、それぞれのバックグラウンドを踊りを通して語り合いながら、出会い直してもらうための場をプロデュース。

■View1-③ 川瀬亜衣プロデュース

「ステイトメント:ダンサーを記録する」ダンサーを凝縮させたソロダンス「ステイトメント」の創作と上演を通して語られる言葉をインタビューや上演を通じて集め、アーティスト自身の活動を補強するテキストとして活用。

(2)View.2「ダンス留学 —照明研究会バージョン—」

ダンサーと照明スタッフが協働して照明、空間について実験の場を持ち、照明演出を利用した作品制作のプロトタイプを行った。前半は、若手のダンサーの視点からの照明や空間に関する疑問を共有し、意見交換を行った。またダンサーに向けた照明ワークショップを行い、8 月以降の自主研究会に向けての実験項目をピックアップした。ナビゲーター:三浦あさ子 and ダンスボックス照明班、米澤百奈、いはらみく

(3)View.3<塚原悠也 from contact Gonzo プログラム>

「recorded before forgotten vol. 01」ダンス作品を中心に上演芸術における「記録映像」に焦点を当てた展示。ArtTheater dB Kobe で上演された公演(垣尾優『愛のゆくえ』、中間アヤカ『フリーウェイ・ダンス』)の上演時の記録映像や創作にまつわる映像などを展示し、ライブでの上演と映像・アーカイブの関係性について考える機会を作った。参加アーティスト:中間アヤカ、垣尾優(各アーティストの作品の記録映像と関連資料映像の展示)

(4)View.4 <坂本公成、森裕子/モノクロームサーカス プログラム>

「家具と身体とコンタクト with graf」クリエイティブ集団 graf 製作の家具「Narrative」、「TROPE」とコンタクト・インプロヴィゼーション(CI)のスキルを使って小作品を作りました。

(5)View.5 <東野祥子/ANTIBODIES Collective プログラム>

「表現者の視点—創作と現実、社会と生活、Work in Progress」招聘する数名のコレオグラファー、音楽家、美術家の視点から、オリジナルの創作方法の解説や、コンセプト作り、体験 WS、などをシェア。参加者がプロとして活動していく方法を模索。最終日にはコラボレーションの形態にて、短い作品作りをし、発表。

【入場者・参加者(育成対象者)】 view1-5 計 247 名

⑦ 名古屋クリエイティブパートナー

【タイトル】コレクティブ・探究／創造／構築 黄金芸術祭 2019 【運営】N-mark

【日程】9月-11月

【場所】黄金 4422 BLDG.

【講師・アーティスト】クリエイティブ・ディレクター：山中 透、インタープリター：平井 優子・小池陽子、講師／アドバイザー：伏木 啓・福井 孝子、特別ワークショップ講師：ANTIBODIES Collective

【内容】コンテンポラリーダンス作品を創りたい方を対象に、実践や座学を通して多角的に「学ぶ」「試す」「上演する」までの一連のプログラムを行う。ダンス・音楽・映像・美術など異ジャンルのアーティストがそれぞれの分野を知り、交流し、共に模索しながら舞台作品を作り上げることで、先駆的・独創的な舞台芸術の創作に繋がることを目指した。

①基礎プログラム／身体・論理・技術の3方向からコンテンポラリーダンス作品創作における基礎的なことを学び、参加者それぞれがコンセプトを持ち寄り作品を創った。単発参加可能なワークショップも開催。

②応用プログラム／（連携ワークショップ＆ショーイング）参加者が創作作業の過程で他分野のアーティストとのコミュニケーションの方法を探り、次に繋がるものを見出していくプロセスを経験。フィードバックを重ねながら、各自のアイデアを具体的な作品にまで発展。また、ホールでの照明や音響を使った演出方法や効果のリサーチや、連携プログラムとして ANTIBODIES Collective によるクリエーション・ワークショップを開催。

③実践プログラム（成果発表ショーイング）／最終成果として全体を一つの作品にまとめた。

【参加者（育成対象者）】計9名

⑧ 創造環境パートナー／ヘルスケア

【タイトル】パフォーマンスのためのヘルスケアピット 【運営】NPO 法人芸術家のくすり箱

【日程】3月15日

【場所】京都芸術センター

【講師】岩井隆浩（芸術家のくすり箱理事、麻布十番ルーブル治療院 代表）

【内容】ダンス作品を創り、上演するうえで、ダンサーがベストコンディションであることが望ましいのはいくまでもないが、その管理は個々人に任せられている。芸術家のくすり箱の公演ヘルスケアサポートは、ダンサー個人だけでなく振付家や制作者等と治療師やトレーナーが連携すること、さまざまな職種（医師、理学療法士、治療師等）が、怪我のケアだけでなく、踊るためのカラダづくりの役割を果たすことでベストコンディションに導くことを目指す。多くのコンテンポラリーダンスの公演を統括する立場にある振付家やその育成に携わる方に、その活用について事例を紹介すべく、1)ダンサーだからこその特徴をふまえた治療デモ、2)セルフケア方法の演習、3)個別セッションを行った。本プログラムは、「ダンスでいこう！ KYOTO Meeting」の一環として実施。

【参加者（育成対象者）】計30名

⑨ 創造環境パートナー／ダンスメディア

【タイトル】『ダンスを撮る！』ダンス映像撮影ワークショップ 【運営】一般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエイツ

【日程】8月29日（木）～9月1日（日）

【場所】イメージフォーラム、HATCH!!渋谷スタジオ

【講師】吉開菜央

【内容】自身の身体を見つめ直し、自ら踊ってみることから得られた感覚を、撮影・編集に反映することに挑戦。本来ダンスは、肉体の動きを他者の身体に伝播させ、心理的な動きとも結びつけて伝えることのできる芸術とされてきたが、それはまさに「映画」「映像表現」そのもの。4日間を通して、対象を魅力的に捉え、表現する視点や編集方法にも迫った。

【参加者（育成対象者）】計12名

⑩ 創造環境パートナー／ダンスヒストリー

【タイトル】歴史を知ってダンスを深める 【運営】ダンスヒストリー・スタディーズ

【日程・場所】神戸会場:12月11日 ArtTheater dB KOBE／京都会場:3月15日 京都芸術センター

【講師】芳賀直子

【内容】ダンスを実際に踊り、振付ける人達、公演やプロデュースに関わる人達でも自らが関わるダンスについての歴史を知る機会は日本においては極めて少ない。そうした環境を整備すべくレクチャー形式で歴史を伝え、質疑応答で疑問に答えた。

【参加者(育成対象者)】計49名

⑪ 全体の事業 (運営:NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)

1) キックオフ・ミーティング

【場所】京都市東山いきいき市民活動センター 【実施日】5月29日(水)

【内容】各プラットフォームの運営団体代表者が参加し、各事業の説明、展望などをプレゼンテーション。改めてプラットフォームの意味、意義を考え、全員での目標の共有をした。他に事務局より事業説明と、全体でダンスミーティング。

2) 各地の視察(事務局及び各プラットフォーム運営団体)・オブザーバーの設置

事務局及び各プログラムの運営団体から最低1名が、各地でのプログラム最終段階に訪問し、各地の状況を把握すると共に、相互に評価・意見交換をする機会とする。また、ダンスに精通しアーティストの育成に対して見識のある専門家、及び JCDN 理事を当事業のオブザーバーとして最終報告会に立ち合いいただき、各企画に対する助言や評価など客観的意見をいただく機会とする。

3) 「KYOTO Meeting」(報告会)

【場所】京都芸術センター(京都府京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2)

【実施日】3月11日～3月15日 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日程を2日間短縮して行った

【内容】2019年度の総まとめとして、各プラットフォームの代表者による事業報告、ダンスミーティングを行うほか、創造環境パートナーによるセミナー、2019年度の事例のひとつとして2組のアーティストによる振付家育成のためのワークショップ&ショーイングまで、5つのプログラムを実施した。

◇3月14日(土)

PROGRAM I [プレゼンテーション] 『各プラットフォームからの報告』

PROGRAM II [ショーイング] WORKSHOP 参加者作品『ワーク・イン・プログレス ダンス作品が生まれるとき』

◇3月15日(日)

PROGRAM III [セミナー] NPO 法人芸術家のくすり箱 『パフォーマンスのためのヘルスケアピット』

PROGRAM IV [セミナー] ダンスヒストリースタディーズ『歴史を知ってダンスを深める』

PROGRAM V [ミーティング] 『日本で振付家を育成すること、その課題と可能性』

◇3月11日[水]ー13日[金] ※当初予定より2日間、日程短縮

WORKSHOP①坂本公成、森裕子[モノクロームサーカス]②東野祥子[ANTIBODIES Collective]

【参加者数】Kyoto Meeting 全体の参加者(入場者)数:計64名 (内育成対象者36名)

■文化庁委託事業「2019年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

■全体予算:1730万円

三陸国際芸術推進事業 2019

(1) 芸能マッピング事業

三陸地域の芸能団体の国際的な情報発信を目的に、三陸の郷土芸能所在地を地図上に配置(マッピング)し、東北における各芸能の所在地、種類を表すことで、東北の豊富な芸能の分布を可視化すること、同時に、いつ、どこで、何を鑑賞できるかの情報をわかりやすく一般に提供することで、東北の芸能をより多く鑑賞していただける機会を創出することを目的とし実施した。

1) ホームページコンテンツの作成

(ア) 三陸国際芸術推進委員会のサイトに「三陸芸能マッピング」のページを作成し、一般の方々が東北の芸能情報にアクセスしやすいように構成した。ページ上部では、東北の芸能とその魅力について述べている。

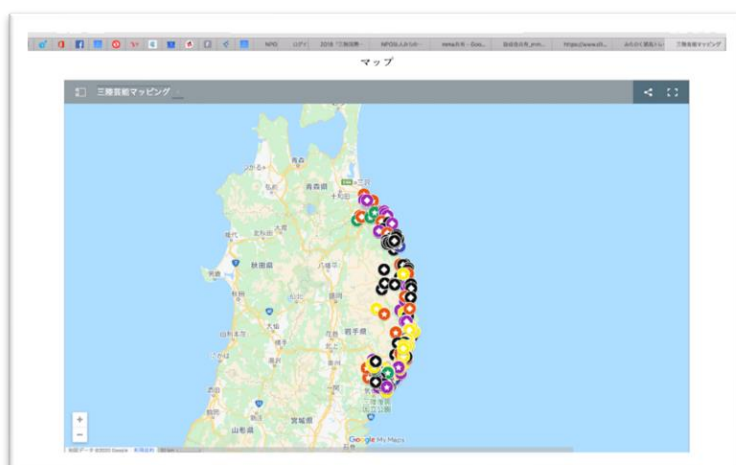
(イ) Google MAP 上への掲示

下段で Google Map 上に東北の芸能団体所在地をプロットした。

(ウ) アイコンの設定 プロットされた芸能団体のポイントデータ芸能種別ごとにアイコンを定めており、拡大してみることができる。

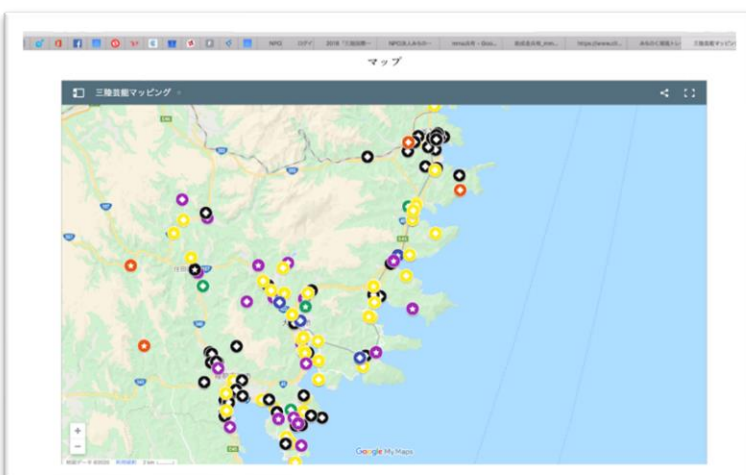
① ポイントデータの種類と凡例は以下に示す。

過去に三陸国際芸術祭に参加した団体はポイントの中心を☆印とし判別できるようにした。



○芸能の種類は凡例にあるとおり以下の大分類6、小分類24とし、多様な芸能が今なお存在する三陸の状況の可視化に試みている。

大分類: 神楽、しし芸、田植踊、踊り、音楽、祭り



○基礎情報

団体名、所在地・伝承地、芸能の種類、一般公開情報、URL 等情報アクセス先、プロフィール(200文字程度)、写真、動画

(2) アーティスト・イン・レジデンス事業(三陸芸能短期留学)

2019 年 10 月より 11 月にかけて、公募より選ばれた様々なジャンルのアーティスト 6 組が、大船渡市と陸前高田市で 1 ヶ月間(1 組最大二週間)に渡り地域の方々と交流し郷土芸能を習いました。

11 月 3 日は、大船渡市日頃町石橋地区のお祭りに剣舞の演奏などに参加。陸前高田市や大船渡市の芸能や風土から得たものを糧にしたアーティスト自身の作品制作を滞在中から開始し三陸国際芸術祭・会場での発表を予定しておりました。残念ながら 2020 年 3 月 14 日・15 日に予定していた発表会はコロナウィルスの影響で中止となりました。

	日	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31	11/1	11/2	11/3	11/4		
	内容																		見学		芸能まるごと体験館					石橋	八戸		
北野留美 オハケダイガク	10/10-10/23	陸前高田市<広田御祝>					陸前高田市<小友 田植踊>					生出神楽									大船渡市郷土芸能協会 協力 まるごと体験館								
日比野桃子	10月21日～ 11月3日			ピンク=陸前高田市									田植	陸前高田<生出神楽>				黄金け せん! 民俗 芸能 大祭 (大船渡 市民文 化会館)	浦浜	赤沢	石橋	永浜	創作	八戸入	八戸 発表	八戸 発表			
佐藤公哉(キミヤ)	10月21日～ 11月3日			イエロー=大船渡市			大船渡ゲストハウス宿泊					大船渡<石橋> 19:30～				浦浜	笹崎		前田	永浜	大船渡<石橋>								
渋谷裕子、大部仁	10月21日～ 11月3日												石橋 19:30	浦浜 13～	浦浜 17～	浦浜 13～	浦浜 13～		浦浜 13～	浦浜 15～	笹崎	前田	永浜	大船渡<石橋>					
まだこばやし 3人	10月22日～ 10月30日												大船渡<永浜鹿踊> 19～				浦浜		赤沢										
武田力 (タケダリキ)	10月28日～ 11月4日													大船渡ゲストハウス宿泊					浦浜	笹崎	石橋	永浜	大船渡<石橋>						

アーティスト・レポート

1) 三陸の芸能を習ってみていかがでしたか?

- 三陸地域の生活とともにある芸能を体感し、生活とアートの共存の歴史を感じられた。(まだこばやし)
- 短期間で複数の団体を見られる機会はあまりないと思うので、良い経験でした。(日比野桃子)

2) 三陸での AIR は、ご自身のアーティスト活動において、どのような影響、意味があると思いましたか?

- 鹿踊りや剣舞から動きの構築、音楽との関係性、装束と身体の関係性などのありかたが普遍的であり自身の創作においての指針を見ることができた。(渋谷裕子)
- 自分たちの表現(太鼓とダンス)に直接的に関わることでしたので新たな表現方法の獲得ができた。(まだこばやし: 酒井直之)

受け入れ団体からのコメント

- 受け入れにつままして永浜鹿踊りの舞手は大変刺激になり、保存会も益々盛り上がりました。ありがとうございます。皆さんの発表を楽しみにしています。(大船渡市赤崎町・永浜鹿踊り 金野彰会長)
- 数百年継承して来たこの地域の芸能は特別なものだと思っていましたが、彼らと出会い、現代の音楽や踊りにも共通した根っこがあると知りました。今後も粘り強く続けてほしい企画です。(大船渡市日頃市町・石橋鑑剣舞 鈴木昭司氏)
- とても熱心に稽古に耐えてくれた。さすがそれで飯を食う芸術家だと感じた。この短い時間でよく踊れていたと思う。経験したものを糧として彼らがどのような表現をするか楽しみにしております。(大船渡市三陸町・金津流浦浜獅子躍 古水力会長)
- 郷土芸能に興味を持ってくれたのが良かった。若い人は覚えが早いと感心した。このような人がもっと増えていけば良いなと思った。どの芸能にも言えることだが、歴史やルーツ、何故その土地で生まれたのか等分かったうえで習得していった方が深い理解につながると感じた。(陸前高田市・生出神楽)
- 一生懸命真剣になって習ってもらって良かった。自分たちが年配となり、踊れなくなったものを代わりに踊ってくれたのが良かった。伝承できたという実感がある。忘れかけていたものを思い出せるきっかけとなった。楽しいひと時だった。(陸前高田市・上ノ坊田植踊り)

(3) 三陸国際芸術祭 2019

三陸沿岸に受け継がれている郷土芸能の魅力を発信、国内外との芸能を通じた交流、現代芸術と芸能の出会いを目的として、2014 年から開催。今年度は三陸沿岸の約10地域でプログラムを展開し、三陸の郷土芸能と世界を結びつけ、文化芸術の魅力を活かした創造的な地域づくりと復興を目指す。

テ ー マ 『触レル』

芸能は営みとともにあり、その文化と様式は語り尽くせぬほどの衝突と融合の果てにある。海と山とまちの往来で人に触れ、新たな営みがはじまる。未知への畏敬と祈りから、神や獣に触れ、その人ならざるものの視点を借り受ける。芸能に触レル。芸能が触レル。そのふたつが過去から未来へと私たち営みを引き繋いでいく。

【秋プログラム開催地】 陸前高田市、大船渡市、岩泉町、山田町、久慈市、大槌町、八戸市(対象外事業)

【秋プログラム日程および参加者等】

日程	プログラム	種別	参加者
10 月 26 日(土)	陸前高田市: 習いに行け!三陸へ!!	企画	中止※台風による
10 月 27 日(日)	大船渡市: 黄金けせん!民俗芸能祭	企画・派遣	400 名
10 月 27 日(日)	パロンダンスとガムランのタベ	企画	50 名
10 月 27 日(日)	岩泉町: 七頭舞の里おもて鮭まつり	広報連携	中止
10 月 29 日(火)	山田町立轟木小学校: パロンダンス体験・演舞交流会	派遣 (その他)	生徒 26 名 保存会 6 名
10 月 29 日(火) ～10 月 31 日(木)	大船渡市: 大船渡まるごと芸能体験館	広報連携	団体 5 組 参加者 21 名
10 月 30 日(水)	久慈市立夏井中学校: 夏井大梵天神楽×パロンダンス	派遣 (その他)	生徒 51 名 保存会 5 名 保護者 20 名
11 月 2 日(土)	大槌町: 国際共同制作芸能 「シシの系譜／その先に」	企画	300 名
11 月 3 日(日・祝)	八戸市: 習いに行け!三陸へ!!	企画	6 名
11 月 3 日(日・祝)	八戸市: カドヅケ×商店街(対象外)	企画	350 名
11 月 4 日(月・休)	八戸市: 南部会館公演(対象外)	企画	120 名

【冬プログラム開催地】 階上町、普代村、洋野町、田野畑村、宮古市、大船渡市 ※コロナの為すべて中止

日程	地域	
3 月 1 日(日)	階上町: 階上町南部芸能発表会	中止
3 月 8 日(日)	普代村: 神楽宿おもてなし体験	中止
3 月 8 日(日)	普代村: 神楽宿で神楽	中止
3 月 12 日(木)	洋野町: 洋野芸能交流会	中止
3 月 14 日(土)	田野畑町: 三陸下北芸能交流会	中止
3 月 14 日(土)	三陸芸能列車 三陸下北芸能交流会編	中止
3 月 14 日(土)	宮古市: 三陸芸能短期留学発表会	中止
3 月 15 日(日)	みやこ郷土芸能祭×三陸国際芸術祭	中止
3 月 15 日(日)	大船渡市: 三陸芸能短期留学発表会	中止

三陸国際芸術祭前期(秋プログラム)は、開催直前に台風 19 号により、開催地である沿岸各地が被災し、陸前高田市と岩泉町のプログラムが中止された。また、地域の被災に加え、三陸鉄道の被災・不通により東北への観光客数自体が大きく減少する事態となり、台風被害直後に開催された大船渡市の事業については、地域事業と同日開催であったこともあり来場者数が思うほど伸びなかった。一方で、11 月になりインドネシアの団体を招き開催された大槌町の事業では、台風後 1 ヶ月未満にもかかわらず、町内の方々を含め多くの来場者を得ることができた。

・事業による成果

従来からの三陸国際芸術祭の目的である、「三陸の郷土芸能の衰退を食い止め、活性化し、地域コミュニティそのものを活性化することで、三陸地域の持続的な発展につなげる」こと、および「取組みを広く関連各者が協働で発信し三陸全域への関心を高め、地域の活性化と交流人口の拡大に繋げる」ことについては、芸術祭そのものの認知も徐々に進み、関係者との連携体制も構築されてきているところであり、今後さらに継続することでさらなる成果が期待できる。

また、今回の事業のうち、国際共同制作芸能「シシの系譜／その先に」は、バリ島の芸能と大槌町の複数の芸能が共演するまったく新しい舞台であり、創作性の高い、伝統芸能のあらたな形を示唆するものであり、観客からも「他国の芸能と地元の芸能が似ていることに驚いた」「町内のまったく違う芸能が同じ舞台に立つという貴重なものを見ることができた」「素晴らしい舞台だった」との称賛を得ている。今後もこのような創作性の高いものに挑戦する価値を見いだせたものと考えている。

一方、2020 年 3 月に予定していた三陸国際芸術祭後期(冬プログラム)は、準備をすすめていたものの、新型コロナウイルスの感染予防のため、中止を余儀なくされた。

<三陸国際芸術祭 2019 開催クレジット>

主催：三陸国際芸術推進委員会、国際交流基金アジアセンター

共催：八戸市、階上町、久慈市、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、釜石市、大槌町、陸前高田市、大船渡市、住田町、(公社)全日本郷土芸能協会、三陸鉄道株式会社、NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク、NPO 法人いわてアートサポートセンター、大槌町郷土芸能保存団体連合会、ほか

助成：さんりく基金、SOMPO アートファンド、ほか

協力：トヨタ自動車株式会社

プロデューサー：佐東範一（NPO 法人 JCDN）／八戸プログラムディレクター：今川和佳子（合同会社 imajimu.）／宮古プログラムディレクター：坂田雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター）／海外芸能ディレクター：前川十之朗（みんなのしるし合同会社）、武藤大祐（舞踊評論）／郷土芸能ディレクター：小岩秀太郎（(公社)全日本郷土芸能協会）／郷土芸能アドバイザー：阿部武司（東北文化財映像研究所）／広報：坪井奈穂美 広報アドバイザー：相澤久美（NPO 法人震災リゲイン）／事務局長：藤谷玉郎 事務局：葛谷誠（NPO 法人 JCDN）／フェスティバルアドバイザー：稲田奈緒美（舞踊研究・批評）、吉本光宏（ニッセイ基礎研究所研究理事）

三陸国際芸術推進事業 2019

主催：三陸国際芸術推進委員会

事務局：NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

（岩手事務所）岩手県大船渡市大船渡町字台 16-1

■芸能マッピング、芸能短期留学：文化庁2019年度戦略的芸術文化創造推進事業

■三陸国際芸術祭 2019：国際交流基金アジアセンター、さんりく基金、SOMPO アートファンド、ほか

■全体予算：3600 万円

3.「すべての人がダンスと出会う」機会を創る、コミュニティダンス

こちかぜ(東風)キッズダンス 6

—東山区発の、ダンスによる子ども育成を通じた地域力創造プログラム 2019—

こちかぜ(東風)キッズダンスは、2014 年 6 月、京都市東山区・東山いきいき市民活動センターを拠点にスタートした、周辺地域の子どもたちとのコミュニティダンス・プロジェクト。継続 6 年目を迎える。

今年も全てのメインプログラムを公募制にして、集まった子どもたちと三条学童保育所の子どもたちが一緒に、計 19 回の活動を行った。他に、アウトリーチプログラムを東山区内 2 か所で行った。

今年の主な初の試みは次の通り。メインプログラムを 4 月から始めて、前年度のワークで形作ったダンスの小ピースを新 1 年生を交えて小作品にし、5 月に宝ヶ池の子どもの楽園で成果上演を行った。これまで成果上演は東山三条地域の秋のお祭り「まちづくりフェスタ」がメインだったが、子どもたちの世界観をひろげる機会として、子どもたちにとって住み慣れた地域から少し離れた場所で行われる、少し大きなステージにチャレンジした。また、冬編ではサポート・ダンサーがメインでワークショップをナビゲートする回を設けた。最終回のワークでは、スペシャルゲストとして音楽家を招き、ダンスと音楽と美術のワークショップを開いた。

また、5 年間こちかぜキッズダンスに参加してきた 5 年生の子ども 3 名が、報告書のための座談会(2 月に実施)に初めて参加し、それぞれの想いを言葉にして語ってくれた。これまで、子どもたちからの前向きな本音をほとんど耳にする機会はなかったことから、何よりうれしい出来事だった。

今年度も活動報告として PHOTO DOCUMENT と別冊報告書を作成。別冊報告書には、上述の子どもとの座談会の様子を収録したほか、別事業で実施した福祉とアートの連携を考える勉強会の記録を収録した。

<事業内容>

【メインプログラム(公募ワークショップ)】

期間:[春編] 『宝ヶ池・子どもの楽園で、踊ろう!』(計 5 回) 4/25~5/18

[夏秋編] 『今シーズンも、100%こちかぜ!!』(計 10 回) 8/1~11/3

[冬編] 『こちかぜに、いらっしやい!』(計 4 回) 11/28~1/18

ワークショップ会場:京都市東山いきいき市民活動センター 多目的ホール他

対象:京都市三条学童保育所の小学生(1 年生~4 年生)、近所の子どもたち

公募参加者:4 歳から小学 6 年生(経験問わず、だれでも OK!) 延べ 301 人

成果上演:5/18「左京東山児童館学童保育所まつり」会場:宝ヶ池・子どもの楽園

11/3「三条まちづくりフェスタ 2019」会場:若松通と花見小路通の交差点

【アウトリーチ】

■京都市三条学童保育所 親子行事でのダンスワークショップ

2019 年 12 月 7 日(月) 11:00~12:00 対象:三条学童保育所の子どもと保護者 約 12 人

■京都市三条保育所での 1 日ダンスワークショップ

2019 年 12 月 18 日(木) 10:00~11:00 対象:5 歳児 計 22 人

©2019 プロジェクトメンバー

[ワークショップナビゲート・作・演出] セレノグラフィカ(隅地茉歩・阿比留修一)

[美術・衣裳ワークショップナビゲート・アシスタント] 出川晋

[サポート・アシスタント] 千代その子、高木喜久恵 [アシスタント] 米澤百奈、室田敬介

[写真記録] 草本利枝 [制作協力] 岡本卓也、蔵田翔・葵唯(京都市東山いきいき市民活動センター)

[企画・制作] 神前沙織、新原怜 [主催] NPO 法人 ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)

[共催] 有限責任事業組合まちとしごと総合研究所(京都市東山いきいき市民活動センター 指定管理者)

[特別協力] 京都市三条学童保育所 岡崎先生、西本先生、野口先生、橋本先生、篠原先生

■令和元年度京都府地域交響プロジェクト交付金 令和元年度子どもゆめ基金助成活動

■協賛:公益財団法人 京都オムロン地域協力基金 ■後援:京都市教育委員会

■予算:144 万円

4. 子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力を育む、創造的なダンス教育の普及

令和元年度「文化芸術による子供育成総合事業－コミュニケーション能力向上事業－」コーディネーター方式

からだを使ったコミュニケーションや創作方法である“ダンス”を通じて、児童生徒の創造力・想像力・コミュニケーション力の向上を目的に、アーティストが学校へ出向いて行うワークショップをコーディネートする。同時に、教員対象の実技指導講座なども行っている。2019 年度は大阪府堺市・沖縄県・滋賀県大津市の 3 地域 計 9 校で実施した。コーディネーター：神前・新原(JCDN)

<実施内容>

実施月日	市区町村	実施校 (対象児童生徒数)	派遣芸術家	実施内容
11 月 20・21・ 12 月 2 日	大阪府 堺市	堺市立八上小学校 (2 年生 2 クラス 72 名)	康本雅子	アーティストと担任教員の共同授業の形で進行。全 3 回を通して、様々な創作の方法を体験させる。最後に簡単なショーイング。
12 月 3 日・ 10・16 日	大阪府 堺市	堺市立東陶器小学校 (6 年生 3 クラス 78 名)	田中幸恵	全 3 回を通して、様々な創作の方法を体験させる。最後に簡単なショーイングも行う。
1 月 23・30 日・2 月 4 日	大阪府 堺市	堺市立大仙西小学校 (5 年生 1 クラス 16 名)	市川まや	全 3 回を通して、様々な創作の方法を体験させる。自己表現や新たな自己の開放などを学びにする。
10 月 8・9・10 日	沖縄県	西原町立西原東小学校 (1 年生 3 クラス 98 名)	マニシア	12 月の学習発表会に向けて、その素材になるシーンを学年全員で創る。
10 月 23・24・ 25 日	沖縄県	宮古島市立 伊良部島中学校 (1 年生 2 クラス 37 名)	マニシア	島に 2 つしかない中学校が統合し一つになった初めの年。子どもたち同士のコミュニケーションを促す機会として、1 年生全員で一つのダンスをつくり発表。
1 月 8・9・10 日	沖縄県	宜野湾市立 普天間小学校 (2 年生 4 クラス 114 名)	長井江里奈	全 3 回を通して、様々な創作の方法を体験させる。最後に簡単なショーイングも行う。
1 月 14・15・16 日	沖縄県	竹富町立上原小学校 (5・6 年生合同 26 名)	知花幸美	全 3 回を通して、様々な創作の方法を体験させる。最終日に感情の表現に挑戦。
11 月 19・21・ 29 日	滋賀県 大津市	大津市立南郷中学校 (2 年生 4 クラス 134 名)	東野祥子	全 3 回を通して、様々な創作の方法を体験させる。
2 月 5 日・12・ 26 日	滋賀県 大津市	滋賀大学教育学部附属 特別支援学校 (小学部全 14 名)	北村成美	継続 2 年目。オリジナルの「ふとくボレロ」を児童が創作し、最終回に保護者向けに発表。小学部担当の先生全員がダンスに参加し指導法を体験していただく。

■令和元年度「文化芸術による子供育成総合事業－コミュニケーション能力向上事業－」(文化庁)

■予算:376 万円

＜児童生徒の様子、具体的な変化、この事業に期待する事など。振り返りの教員感想から＞ 3校抜粋

◎堺市立大仙西小学校(大阪府)

堺市の特殊な地域にある学校で、家庭事情が複雑であったり、課題を持つ児童がほとんどであることが、回を重ねるうちにわかってきた。家庭で褒めてもらう機会が少ない児童が多く、理解力もゆっくりしている。初回のワークでアーティストと子どもたちの関係性を作ることができたため、授業は全体として和気あいあいと進行することができた。

3日間を通して、児童に大きな変化や成長が見られた。全員で輪になって名前を回していくワーク(3回ともに初めに行った)では、アーティストと一緒に言わなくても全員の子がはっきり自分の名前を言う事や、「せーの」を言わずに合わせることができた。3回目に初めて取り入れた名前のワークは戸惑いも見られたが、先生によると、初めての事に対して固まらずにずっと取り組めただけでも大きな変化だと伺った。

＜最終日の先生の感想＞「友達関係に不安のある子が自分から人を誘えたこと、自己の表現が不得意な子が勇気を出して声を出したこと、新たな自己の開放など、たくさんの子どもの変化や成長、そして課題も含めて、多くの面を引き出していただいた」

◎宮古島市立伊良部島中学校(沖縄県)

統合で校名が新しくなったが、昨年度も訪れた学校で、顔見知りの先生方との取り組み。去年ほど難しい生徒はおらず、思春期の中学生にしては恥ずかしさも少なく、取り組みやすかった。授業後の振り返りで先生から、「一部の女子生徒は、そうなるとすぐ授業放棄する傾向があるが、ダンスの授業では1日目からそれが見られなかった」「たまたま動きが面白くてアーティストが注目した生徒が、情緒があり、ふだん嫌われる傾向にある生徒であった」など、生徒同士の普段の関係性を崩す良い機会になったと伺う。

2日目になるとアーティスト、生徒同士の距離もより開放的になって打ち解けてきて、「部落間の壁もあり普段だとスムーズにいかないチェンジ(組む相手を変える)が、今日は意識せずにできた」「この時期特有の男女や友達との隔たりが、昨日から少しづつ薄くなってきているのを感じる。」と具体的な変化をお聞きした。

最終日の振り返りでは、この事業への期待を次のように伺った。「動画を見ながらコピーするのは誰にでもできるけれど、創作ダンスの表現は中学生では体験できないし思いもしない世界。聴いた事もない曲で表現するのも絶対にはない体験だが、よく覚えてやり切った。」「コミュニケーションについて、定期的にこのワークを行えたらもっと効果が出ると思う。お互いのいいところを探して認め合うカウンセリングのように。文字にするのではなく身体で表現する事で、新しい関係性を構築する機会になっている。」

◎滋賀大学教育学部附属特別支援学校(滋賀県大津市)

昨年度に続いて2年目の実施となる。型にはまらない子供自身の想像性を認めるダンスに、まだ学校内部の理解が十分ではないと担当の先生から伺う。型がないものへの抵抗があるのだと相談を受けた。そこで、アーティストが、今年はいえ型を取り入れることを提案。振付の型ではなく、音楽の型(ポレロの曲)を用いて、創作を行う事にした。また、事前に各学年担任の先生向けのインリーチを行い、授業から発表全てに児童と同じ参加者として関わってもらう事にした。

最終回の「ふとくポレロ」上演は、ワークショップ以上の笑顔が児童に見られ、とてもよい発表となった。

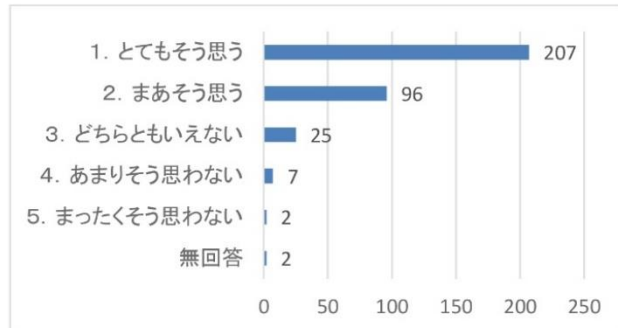
滋賀大附属特別支援学校の先生方は、ここでの研修を終えて、県内各地の小中学校の支援担当として赴任する事になるため、先生方に対する教育の機会にもなるという。教師がこうあるべきと子どもに押し付けるのではなく、子どもの自発的な創造性を引き出す教育のひとつとして担当の先生には本事業に注目していただいており、次年度も継続して実施予定である。

令和元年度文部科学省「文化芸術による子供育成総合事業－コミュニケーション能力向上事業－」
コーディネーター実施方式 アンケート集計 <自由記述（感想など）部分を除く>

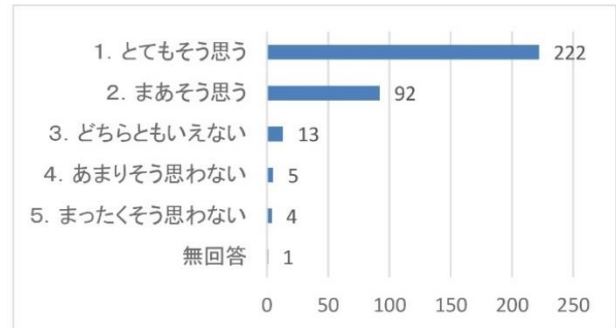
【児童アンケート】 回収 339枚（男170, 女165, 無回答4/合計9校中、回収できた学校のみ）

質問 ダンスのワークショップに参加してみて、どうでしたか？

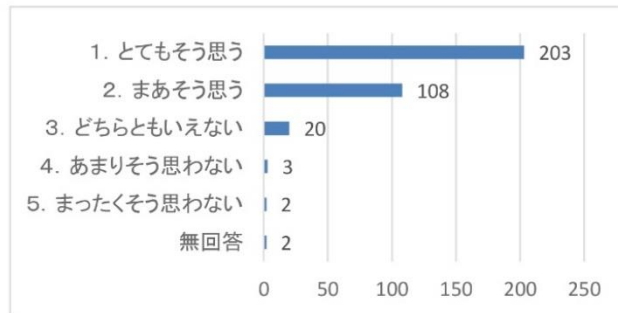
1) 満足しましたか？



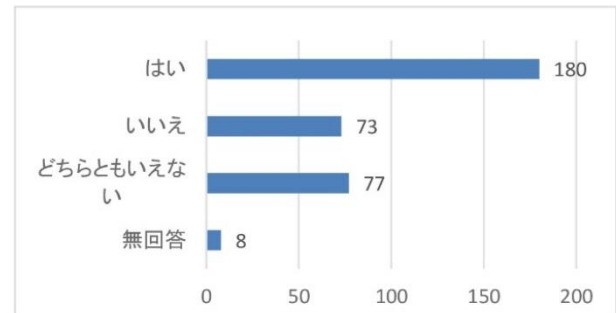
2) 楽しかったですか？



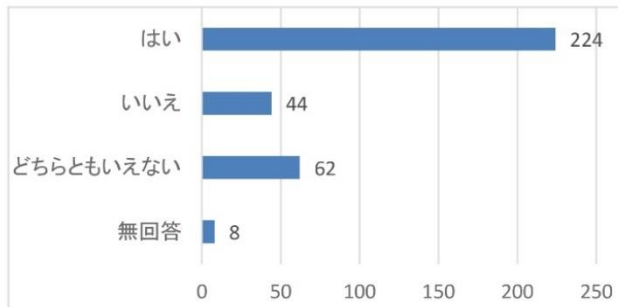
3) 説明は分かりやすかったですか？



4) いつもと違う友達の様子を見つけましたか？



5) また参加してみたいですか？



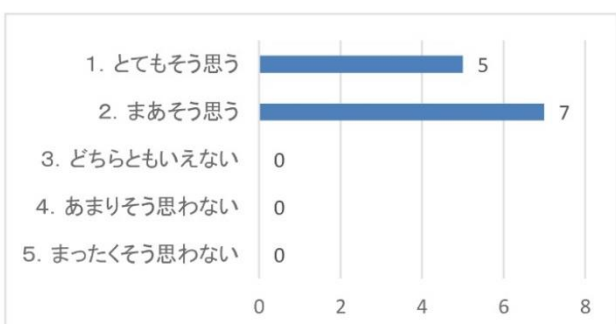
【教員アンケート】 回収 12枚（男5, 女7, /合計9校中、回収できた学校のみ）

質問① 児童の様子について、下記の項目に1～5段階でお答えください。

1) 子供たちの豊かな自己表現がみられた。



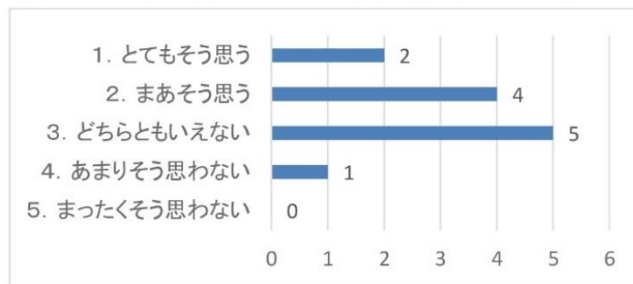
2) 普段に比べて、子どもたちが自発的に参加していた。



3) 自分の行動や発言に自信を持つようになった。



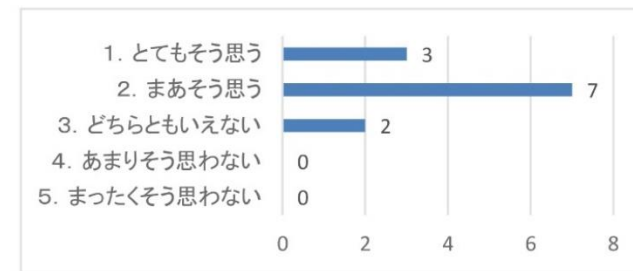
4) クラスの中で、子どもたちの関係性が変化した。



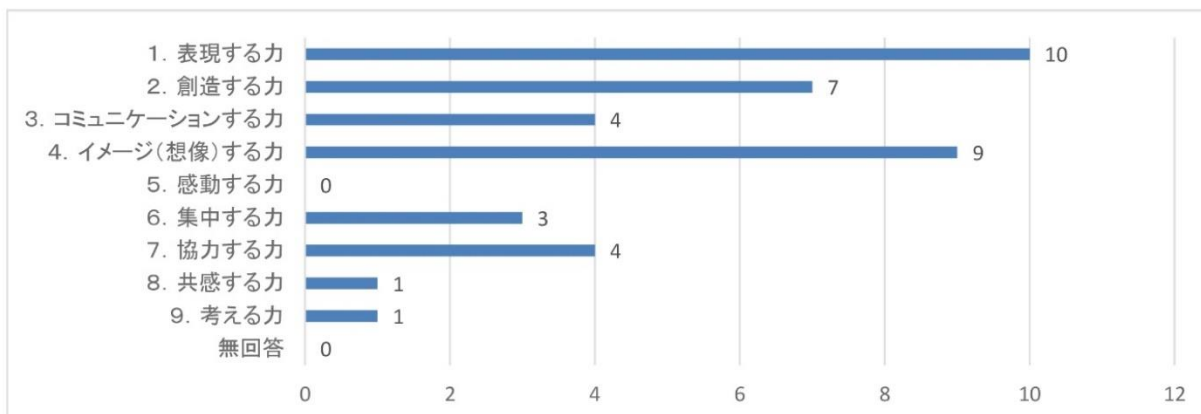
5) 以前より協調性が生まれた。



6) 今まで知らなかった友達の良さや特徴を発見した。

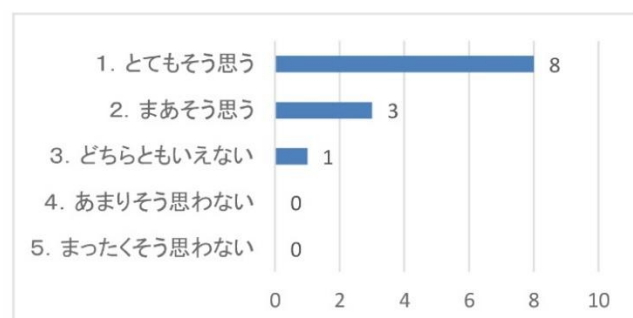
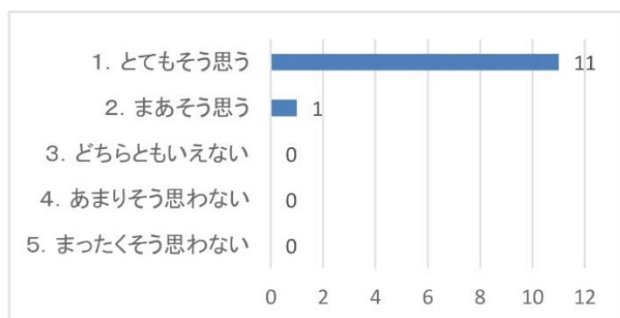


質問② このワークショップが、児童生徒のどのような能力を育むことに効果が高いと思いましたが
(下記の中から当てはまるもの上位3つに○をつけてください)

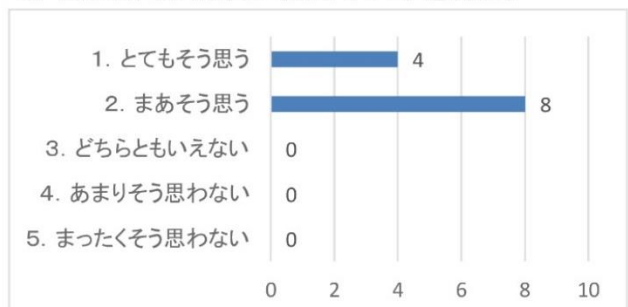


質問③ 先生ご自身について、下記の項目に1～5段階でお答えください。

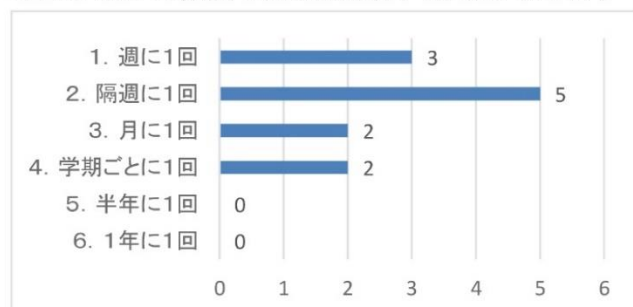
1) 普段の授業に活かすためのヒントを得ることができた 2) いままで知らなかった子供たちの新たな面を発見した。



3) 今後のクラス運営に役に立つことを得た。



4) どのくらいの頻度で行えば定着すると思いますか。



文部科学省「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」2019

2018 年度に続き 2 年目。子どもたちの自己肯定感の向上に創造的なダンス(コンテンポラリーダンス)が活用できることを具体的に明示し、ダンスの力をより社会に活かす道筋をつくるきっかけとして取り組んでいる。

2014 年から京都市東山区で 6 年継続してきた「こちかぜキッズダンス」の活動実績をもとに、本プロジェクトでは、何かしらの理由で創造的なダンスに出会うことが難しい子どもたちがいる場所へ体験活動の場を拡げる機会とするとともに、推進会議にて教育研究者や教員、アウトリーチ先の担当者と文化施設の担当者も交えて、創造的なダンスの活動の社会的意義や、「教育」「福祉」「更生保護」の分野ごとに社会的課題に取り組む諸団体と芸術団体との連携方法を話し合う場を持った。また、ダンスによる体験活動の第三者評価のひとつとして、新たに開発した「エスノメトリ法」を用いて体験活動の一部を調査し分析を行った。

※詳細は、プロジェクト独自の報告書を参照

<推進委員会>

【第一回】 テーマ「小学校・中学校での創造的なダンスの活動」 2019 年 6 月 23 日(日)

ゲスト:遠藤美希、小村阿紗子、串畑ひかる、廣岡あかね、山田彰良、横山海二/大阪府堺市・和泉市教員

【第二回】 テーマ「児童福祉施設での創造的なダンスの活動」 2019 年 9 月 29 日(日)

ゲスト:小川祐美/母子生活支援施設「野菊荘」児童支援員主任、飛永吉哉/児童養護施設「平安養育院」指導員主任、田中幸恵/NPO 法人ダンスボックス コーディネーター

【第三回】 テーマ「更生保護と創造的なダンスの活動」 2019 年 12 月 21 日(土)

ゲスト:北尾優樹/京都府警察本部 少年課 少年サポートセンター 相談・支援係主任、高田育子/検察事務官、Kyoto Dance Exchange メンバー、田中幸恵/NPO 法人ダンスボックス コーディネーター

◆推進委員 ※肩書は 2019 年度時点

【委員長】

・西田尚浩:公益財団法人 京都市ユースサービス協会 京都市東山青少年活動センター シニアユースワーカー

【委員】

・藤川信夫:大阪大学大学院人間科学研究科 臨床教育学講座 教育人間学研究分野教授

・伊藤駿:NPO 法人日本教育再興連盟(ROJE)スーパーバイザー、日本学術振興会 特別研究員

・沼田里衣:大阪市立大学都市研究プラザテニユアトラック特任准教授、音遊びの会、おとあそび工房主宰

・内田桃子:一般社団法人桃李教育会 代表理事、大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程学生

・渡邊和也:大阪府堺市教員/堺市立浜寺小学校勤務

・竹内香織:公益財団法人 京都市芸術文化協会 事業課長

・岡本卓也:京都市東山いきいき市民活動センター 館長

・岡崎弘、西本翔馬:京都市三条学童保育所 所長、職員

・隅地茉歩・阿比留修一/セレノグラフィカ:ダンスアーティスト

【オブザーバー】

・倉谷誠:京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課

<体験活動>

1) 母子生活支援施設Aダンスワークショップ2019

母子生活支援施設Aは、18歳未満の子どもを養育している母子家庭、またはさまざまな事情で離婚届ができていないなどの母と子が利用できる児童福祉施設で、DVなどの深刻な状況に置かれた母子を一時的に保護するシェルターでもある。施設としては、身体を動かすことによるプラスの要素に着目しており、継続してプロのダンスのアーティストに関わってもらう機会を望んでおられた。そのため、実施回数を増やして重点的に取り組む事とした。

◎期間：2019年10月から翌2月まで ※計10回のワークショップ

※1回のワーク時間は60分。アーティスト・スタッフは、前後に事前打合・振り返りを行う。

◎対象／母子生活支援施設Aで生活している1-6年生の子どもたち 延べ20人

◎メインアーティスト：セレノグラフィカ(隅地茉歩・阿比留修一)

◎アシスタント：花沙、鈴木英理子、高橋芽生子、塩見めい子

◎コーディネーター：神前沙織(JCDN)、鈴木英理子

2) 出張ダンスワークショップ

1、京都府警察 少年サポートセンター 体験活動

>>過去に非行に走ったほか周囲の環境などに問題を抱えたお子さんが、再び非行に走ることなくまたは問題を改善し、健やかに成長できるように、お子さんとその保護者をサポートする「わかばサポート活動」の体験活動にダンスを取り入れる。昨年に続き2年目。

◎日程：1回目(職員対象事前学習)／8月4日(日) 14:00-16:00

2回目(少年対象)／11月10日(日)10:00-11:45

◎対象：わかばサポート活動登録者(小学3年生—中学生) 計3名+学生ボランティア約6名+警察OB

◎アーティスト：東野祥子(1回目)、康本雅子(2回目) アシスタント：合田有紀(2回目)

◎コーディネーター：神前沙織

2、滋賀県大津市立北大路中学校

>>教育分野で自己肯定感向上に資する取り組みに熱心な教員がおられることから、実施を決定。通常の授業枠ではなく、学年事業の校外学習にダンスを取り入れ、一人一人の自己肯定感向上を目指すとともに、生徒同士のコミュニケーションを図る機会とした。

◎日程：教員対象事前学習 10月4日(金)16:00-17:00 会場：北大路中学校

生徒対象校外学習 11月6日(水)9:00-15:00 (うち、ダンスの時間は9:30~14:40)

会場：滋賀県立武道館 柔道場

◎対象：北大路中学校1年生 4クラス134名(男子64名、女子70名)

◎アーティスト：セレノグラフィカ(隅地茉歩・阿比留修一)

◎コーディネーター：神前沙織、新原伶

<調査・分析> ※調査結果は、当事業の報告書を参照

>>本プロジェクトの体験活動のうち、母子生活支援施設Aにおいて、2019年10月11日から2020年2月14日までの期間に、各1時間程度、計10回実施されたダンスワークショップを調査対象とし、新たな分析方法「エスノメトリ法」を用いて調査・分析を行った。

調査責任者：内田桃子(大阪大学大学院人間科学研究科・院生)

エスノメトリ法の開発者および本調査における測定・分析者：藤川信夫

■文部科学省 令和元年度「青少年の体験活動の推進「体験活動推進プロジェクト」自己肯定感向上プロジェクト」

■予算：100万円

社会福祉法人平安養育院 児童養護施設平安養育院 主催

アートを通じて地域で子どもをはぐくむ機運向上プロジェクト

（事業趣旨） 児童養護施設平安養育院は、様々な事情で家庭での療育が困難な子どもたちが生活する施設である。施設の特性上、繊細な個人情報の管理が要求され、オープンな取組が難しいが、年に1回、秋に開催する「子どもまつり」は特別な事業である。昨年度、JCDN のコーディネートで「子どもまつり」のステージで発表した。（創造的なダンスによる、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト 2018）。当日は、非常に盛り上がり、子どもたちの表情からも充実ぶりが伺え、職員、地域の方々とともに一体感を共有することができた。実践を重ねる事で、引き続き、子どもたちがダンスによって自己肯定感を高め、子ども同士の交流が生まれたり地域との交流を深め、施設の外との接点を増やしていくことで、地域に支えられている実感を持てるようにしていきたい。

加えて、本プロジェクトは当院だけの取組にとどまらず、広くアート（ダンス）の良さ・効果を知っていただきたいと考えており、東山区内の様々な団体に呼びかけ、成果報告を兼ねた勉強会を実施することで、アートの効果を共有したいと考えている。「地域の子どもの地域で育てる」という課題は、児童養護施設だけが抱えるものではなく、他の子どもたちにとっても学びの場が増えることにつながる。なお、勉強会の実施に当たっては、同じ東山区内で若手芸術家を支援しているHAPS（東山アーティスト・プレイメント・サービス）に協力いただく。HAPSは、京都市の事業である「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」を実施している団体であり、ダンス以外にも多くの事例を有しているため、それらの事例も併せて区内の団体と共有する。

今後、本プロジェクトを継続していくことで、東山区全体が「アートの力で地域の子どもの地域で育てる」という機運が高まることを目指す。

<平安養育院におけるダンス・ワークショップ／発表会／振り返り>

- 9月3日（火）15:00～17:00 アーティストを交えた事前打合せ
- 9月27日（金）19:00～20:00 子供たちと顔合わせ、ミーティング
- 10月3日（木）16:30～17:45 WS 1回目 ※各回ともに終了後に大人のみの振り返りを行った。
- 10月10日（木）16:30～17:45 WS 2回目
- 10月17日（木）16:30～17:45 WS 3回目
- 10月28日（月）20:00～20:45 美術作成
- 10月31日（木）16:30～17:45/20:00～20:45 WS 4回目、美術作成
- 11月2日（土）午後 リハーサル
- 11月3日（日）午後 ショーイング@こどもまつり
- 11月7日（木）18:00～20:00 参加者との交流会、振り返りのミーティング
- ・各回の参加者は子ども16名、職員3名。
- ・ダンスの講師は康本雅子氏に、全員揃いのTシャツづくりは美術家の出川晋氏に依頼した。

<東山区内のネットワークによる上記成果報告・勉強会>

- 令和2年2月25日（火）16:00～18:00 @平安養育院
- ・東山区内の福祉・教育施設関係者にお集まりいただき、勉強会を実施した。
- ・上記プログラムの他にも美術等の事例を紹介し、参加者間で共有した。

※勉強会の記録を、「こちかぜキッズダンス 2019」別冊報告書に収録しました。

6. ダンスに関わるプログラムの企画立案・コーディネート

埼玉県・公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団主催

世界ゴールド祭 2020（国内招聘プログラム部分）

（事業趣旨）日本初となる高齢者による舞台芸術の国際フェスティバル〈世界ゴールド祭〉は2018年に始動。第2回開催となる2020年は、東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムとして開催。高齢者パフォーマー、高齢者との活動を実践するアーティストや研究者、さらに高齢者福祉・医療等の専門家など、分野を超えて高齢者と芸術に関わる人々が、世界5カ国から集結する。社会の高齢化は世界の多くの国々に共通の課題であり、アートの中で新しい社会のあり方を〈想像／創造〉しようという気運が、これまでになく高まっている。日本の取り組みと世界のムーブメントをつなぎ、交流によって熱気と知見の交換・発展を目指す。

・世界ゴールド祭 2020 の多彩なプログラムのうち、JCDN は国内招聘プログラムのコーディネートを担当。以下のシニア作品を上演予定だったが、新型コロナウイルスの影響により、世界ゴールド祭は中止になった。

2020 年の上演にむけて、様々な準備を 2019 年度に行っていた。

◎ 国内招聘プログラム

国内で高齢者舞台芸術に取り組む劇場・芸術団体から高齢者舞踊団を招聘し公演を実施。沖縄、京都、群馬等を拠点に活動する団体を予定。

出演：ヌチドウダンスプロジェクト（沖縄）

ロスホコス（京都）

TACT／Takasaki Community Theater（群馬）ほか

会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

7. その他、講習・政策提言・アドバイザー等

・城崎国際アートセンター アドバイザー（佐東）

アートセンターの企画段階から関わり、現在は、ダンス部門のアドバイザーを担当する。

・京都府・文化の知恵袋委員（佐東）

「文化の知恵袋」委員。京都ならではの、能、お茶、お香などの数百年続いている伝統文化の委員の方々と、京都全域の小学校に各分野のアーティストを派遣する事業を継続的に行っている。

・令和元年度公共ホール現代ダンス活性化事業（神前）

（一社）地域創造主催の「ダン活」事業において、コーディネーターを担当。

■担当地域：（8 月）愛知県半田市、（11 月）広島県三次市、（2 月）兵庫県豊岡市

・北九州芸術劇場「劇場塾」地域の担い手育成クラス～ダンス編（神前）

北九州芸術劇場主催のレクチャー・セミナーシリーズ「劇場塾」。2019 年のダンス編の講師を担当。

Ⅱ. 会 員 部 門

8. コンテンポラリーダンスに関わる情報の発信

JCDN 会員サービス等

<JCDN 会員の種類と対象>

①アクティブ会員(個人/団体)個人:一口 5,000 円/団体:一口 10,000 円

※法人格を持たないカンパニー等は個人で入会可。

対象:JCDN の目的に賛同し、活動を推進することを目指すアーティスト・プロデューサー・評論家・研究者・ライター・スペース・ホール・美術館・企業・財団・自治体・大学・NPO などの個人・団体

②サポート会員(個人/団体)個人:一口 10,000 円/団体:一口 20,000 円

対象:JCDN の事業を賛助・支援する個人・団体

③ダンスコミュニティ会員(個人のみ)個人:一口 3,000 円

対象:JCDN の活動に共感する個人。

ダンスの情報が得られることによって、ダンスを身近なものとし、楽しむ為の機会を増やします。

<2019 年度 JCDN 会員数> 合計 109 名/組

【現在有効期限会員】アクティブ個人 55 名、団体 18 組/サポート個人 3 名、団体 1 組 /ダンスコミュニティ個人 9 名

【休会会員】(最長 2 年間) アクティブ個人 9 名、団体 1 組 /ダンスコミュニティ個人 3 名

※そのほか、JCDN 役員・スタッフ等(過去も含む) 10 組

JCDN 会員サービスについて

アクティブ・サポート・ダンスコミュニティ会員それぞれに、ダンスを社会に広める為の様々な支援サービスを行っています。特に、JCDN アクティブ会員対象のサービスはサポートを充実させています。

※JCDN ダンスリザーブ オンラインチケット予約システムは、IT 技術の進歩により様々な既存の予約システムがあるため、2019 年度の会員更新時をもってサービスを廃止する事と致しました。長い間ありがとうございました。また、これに伴い、旧来のメールニュース配信サービスを改定し、JCDN メールマガジンを再構成し一般向けのニュースとして配信するなど、現在検討中です。

	アクティブ	サポート	コミュニティ
JCDN メールマガジンの配信 (月 1 回)	○	○	○
JCDN メールマガジンへの投稿 (月 1 回)	○	○	
公演・ワークショップ情報の送付 (DM)	○	○	○
JCDN 主催事業・関連事業の割引、及び会員主催のダンス公演等の割引	○	○	○
JCDN ダンスミーティング(総会)への参加資格	○	○	
主催事業の報告書、年次事業報告書の送付	○	○	
JCDNweb「MEMBERS」ページでの活動紹介★	○	○	
JCDNweb「NEWS」ページでの公演、ワークショップ等の活動情報掲載 ★	○	○	
サポート会員からの企画や JCDN に対しての提案などを話し合う機会を設ける		○	
DM 同封サービス(無料/年 2-3 回程度/不定期) ★	○		
DM 郵送サービス(要実費+作業手数料) ★	○		
助成金情報などの提供、各活動に必要な情報の提供や相談など ★	○		

(★=詳細は、会員更新・新規申込時にご案内しておりますが、随時、遠慮なくご連絡ください。)

会員専用メールアドレス : jcdnmembership@yahoo.co.jp